

平成 26 年 8 月 1 日

本格的な夏の到来を迎えましたが、皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のことと存じます。

本日も、皆様に嬉しいお知らせがあります。

**【日本のポルトガル語圏諸国共同体 (CPLP) へのオブザーバー参加承認】**

7 月 23 日、東ティモールの首都ディリにおいて、ポルトガル語圏諸国共同体 (CPLP) サミットが開催され、我が国の CPLP へのオブザーバー参加が全会一致で承認されたのです。

6 月号の私のメッセージでもお知らせしたとおり、安倍総理は、本年 5 月に現職の総理大臣として史上初めてポルトガルを訪問した際、カバコ・シルバ大統領及びコエリョ首相に対し、「CPLP へのオブザーバー参加」の意図を表明され、ポルトガル側はこれを歓迎し、全面的に支援する旨約束してくれました。

この 5 月 2 日の時点で、7 月 23 日には、「CPLP サミット」が、東チモールで開催されることが決まっていたため、同サミットでの我が国のオブザーバー参加の実現を目指すこととしました。この間 3 ヶ月弱しかなかったのですが、CPLP 事務局に提出する加盟申請書等必要書類の作成、CPLP 加盟 8 カ国の支持取り付け等急ピッチで準備を進め、同サミットで「CPLP へのオブザーバー参加」を実現することができました。

もし今次「サミット」で承認されなければ、次は 2 年先の「CPLP サミット」を待つ必要があったことに鑑みれば、今回アジアで初めて開催された「CPLP サミット」において日本のオブザーバー参加が認められたことの意義はより大きいものと言えましょう。

この極めて短い期間の間に申請手続を了することが出来た背景には、CPLP 事務局の全面的な支援がありました。CPLP 事務局からも「今回の日本のオブザーバー承認は、CPLP 事務局として承知している中で最もスピーディーな「承認」であった。右実現の背景には、もちろん日本が申請のための必要な書類、データを極めて迅速に準備・提出し、その申請書類が簡潔かつ内容豊かなものであったことに加え、そもそも日本が地道な外交努力により加盟各国と良好な関係を築いており、日本のオブザーバー参加に対し、どの加盟国からも反対がなかったという要因が大きい。」との評価を頂きました。

リスボンに本部がある CPLP 事務局のムラルジ事務総長は、モザンビーク出身、事務次長及び外交補佐官はカーボヴェルデ出身で、各々が、その出身国での日本の経済協力を高く評価してくれており、三者ともに「日本の CPLP オブザーバー加盟は、CPLP 自体にとつても有益である」として、オブザーバー加盟手続きを極めて迅速かつ積極的に進めてくれたのです。

また、ポルトガルの強力な支援の他、今次サミットの主催国である東チモールの支援を得て、最終的には、全ての CPLP 加盟各国からの支持を得ることができたのですが、加盟各国に対する支持要請の過程で、我が国にとって伝統的な友好国であるブラジルはもとより、CPLP 加盟の全てのアフリカ諸国において日本の経済援助の実績が良く認識されており、これまでの我が国の外交・経済協力、特に「TICAD」等で培ったアフリカ諸国との関係強化の努力が今回の「CPLP へのオブザーバー参加」実現の大きな原動力となっていることを実感しました。

このように、(1)CPLP へのオブザーバー参加の実現は、安倍総理のポルトガル訪問の成果であること、これにより、日・ポルトガル関係は、新たな段階を迎え、安倍総理の「地球儀を俯瞰する外交」の象徴のひとつとなったこと、(2)本年1月に安倍総理がモザンビーク(当時 CPLP 議長国)を訪問されたことも今回の結果につながっていること、更に(3)安倍総理の今次ブラジル訪問(本日8月1日ブラジル御滞在中)は、この流れの中でも大きな意義があると考えられます。

今回 CPLP のオブザーバー参加が実現し、日・ポルトガル関係は「新たな段階」に入ったとも言え、今後、政治・経済・文化等あらゆる面で更に両国関係を強化していくこととなります。

特に、我が国はアジア太平洋地域で知見・経験が豊富なのに対し、ポルトガルは、ポルトガル語圏諸国(CPLP)のリーダーであり、「ポ」語圏のアフリカ、南米地域に支援を行っています。双方の知見を活用し、第三国における両国間の関係を強化することで、特に、最近日本企業の投資が活発化しているモザンビーク、アンゴラ、ブラジル等で、現地での情報交換や具体的な協力の進展をめざすこととなります。

日本の CPLP へのオブザーバー参加を通じて、民主化、経済成長、開発等幅広い分野において CPLP メンバー国との更なる協力が期待されています。また、今回の CPLP サミットで、三輪昭・CPLP 代表大使が安倍総理大臣のメッセージを伝達したとおり、「グローバルな影響を持つユニークな組織である CPLP を通じて、CPLP 諸国の発展に協力していく」こととなります。

更に、日本国内におけるポルトガル語の普及や文化事業等を共同事業として実施し、加えてスポーツ、観光促進及び人的交流の活発化を図っていくこととなります。

これらの多様、多方面での協力の促進について、皆様の御支援、御協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

#### **【7月の日・ポルトガル間の要人往来】**

また、7月には、「クリスタス農業・海洋大臣の訪日」、「稲田朋美内閣府特命担当大臣のポルトガル訪問」、「衆議院欧州各国憲法及び国民投票制度調査議員団のポルトガル訪問」の3件のハイレベルの要人往来がありました。

「クリスタス農業・海洋大臣の訪日」については、次号で詳細をお伝え致します。

「稲田朋美内閣府特命担当大臣のポルトガル訪問」、「衆議院欧州各国憲法及び国民投票制度調査議員団のポルトガル訪問」については、この「大使館便り」の各々の項目を参照頂きたいのですが、いずれの訪問も日ポルトガル両国関係の促進にとっても極めて有益な訪問であり、安倍総理ポルトガル訪問の良きフォローアップとなったことを御報告致します。

暑い日が続きますが、皆様におかれましては、ご自愛の程をお祈り申し上げます。